

セントラルモニタシステム仕様書

セントラルモニタシステム 一式

I 機器構成

- 1 セントラルモニタ 1台
- 2 ベッドサイドモニタ 6台
- 3 送信機 10台

II 主な仕様

- 1 セントラルモニタ 1台
 - 1) アラームインジケータによる警報機能を有していること。
 - 2) アラームの音色・音量・発光色は、任意に設定できること。
 - 3) 内蔵バッテリーにより、60分以上のモニタリングが継続可能であること。
 - 4) 内蔵バッテリーの定期交換作業は、モニタリングを中断せずに行うことができること。
 - 5) 10日間の長時間波形を保存することができること。
 - 6) リコール波形やグラフトレンド、リストトレンドから見たい心電図波形へ瞬時に遷移することができること。
 - 7) 退床処理後の10日以内のデータについて、呼び出しが可能であること。
 - 8) 専用受信機の増設により、同時モニタリングを32人程度まで可能とすること。
 - 9) モニタリングしている人数に応じて、波形や数字が見やすいように最適化して表示すること。
- 2 ベッドサイドモニタ 6台
 - 1) タッチパネル、ジョグダイヤル、固定キー、ユーザーキー等により、素早い操作ができること。
 - 2) 設定中においてもバイタル情報を表示するため、設定ウインドウを透過させていること。
 - 3) 状況に合った最適なモニタリング環境で表示すること。
 - 4) 最大48時間の長時間波形を全波形保存できること。
 - 5) 血圧測定時間は約18秒で終了すること。
 - 6) 血圧測定は、血圧上昇時の再加圧や血圧下降時の不必要な加圧がなく1回で完了すること。

- 7) 患者の循環動態を常に監視し、患者の容態に変化が見られた場合、自動的に血圧測定を開始すること。
- 8) 体動・低灌流時も安定したモニタリングができること。
- 9) 非侵襲的連続測定が可能なクリニカルセッティングを実現し、非侵襲的な測定項目を個々の臨床現場に合わせて選択できること。
- 10) 双方向無線通信機能を有していること。
- 11) アラーム設定及び患者属性設定がセントラルモニタとベッドサイドモニタで連動していること。
- 12) セントラルモニタから NIBP の測定スタート・ストップ、測定間隔変更の遠隔操作ができること。
- 13) 画面の輝度を下げた夜間モードの開始がセントラルモニタからの遠隔操作でできること。
- 14) セントラルモニタとベッドサイドモニタの時刻が自動的に同期すること、また、電子カルテとの時刻同期を可能とすること。

3 送信機 10 台

- 1) ECG・SpO₂・呼吸パラメータとともに、NIBP 測定値を送信すること。
- 2) ホースレス血圧計と BAN による無線通信ができ、防水型であること。

III その他

当該仕様書と同等の機能を有していることが確認できた場合は、仕様条件の可否について総合的に判断する。